

修センター編地域研究講座に納められている「ラテンアメリカの資源とその開発」は神戸大学経済学部御在職のときから成城時代にかけて一貫した研究テーマであった。

このような国際的視野や科学的洞察は先生自ら養われたものであることは言うまでもないが、わが国の湖沼学を創めた殿父の田中阿歌磨博士や外交官であり文部卿であった田中不二麿子爵の薫陶による所も少なくなかったであろう。油絵と写真は玄人の域に達し『地学写真』の著述がある程である。また日本山岳会永年会員としての榮も受けておられる。先生のお宅には各国の蘭の香りが漂っている。一層の御健勝をお祈り申し上げます。

深見先生の人と学問

木 綿 良 行

深見義一先生は、本年三月末日をもって成城大学を定年退職せられました。先生は、かなり以前から兼任教授として本学経済学部の講座を担当しておられましたが、一橋大学を退官された後、昭和三十八年四月からは、本学経済学部教授として「マーケティング総論」、ならびに、「商業学」を担当せられ、また、昭和四十二年四月からは、新設された成城大学大学院経済学研究科教授をも兼任せられました。

先生は、東京商科大学において内池廉吉先生の指導を受けられ、昭和四年に首席で卒業せられた後、当時内池先生のご専門であった「財政学」と「市場論」のうち、後者の「市場論」を受け継がれ、以来今日に至るまで、「世界経済」という表題を掲げた学問的著作としてはわが国最初の労作である「世界経済総論」をはじめ、第一回商業学会賞受賞の名著「商業学」、学位請求論文「プロダクト・プランニング」など、多くの研究成果を発表するとともに、わが国におけるマーケティング研究の草分けの一人として、その地歩を築かれました。

このようなたえざる研究姿勢は、本学にこられてからも一向に衰えを見せず、昭和四十一年には、現在のわが国におけるマーケティング研究の集大成とも言うべき「マーケティング講座」全八巻を、先生の編著によって刊行せられております。

「原稿はメ切日には必ず渡す。渡せぬ時には首を渡す」。先生の厳しく、折り目正しい研究態度は、かねがねわれわれに畏敬の念を抱かせてきましたが、「人生にもけじめをつけることが肝心。」と、本学退職を機に、多くの雑事から手を引かれ、後進に道をゆずられました。

先生の現在の生活は、悠々自適、昭和三十八年以來の社団法人流通問題研究協会会長の仕事に専念せられ、若手研究者の指導・育成に努めておられます。